

NEC



コマンドラインインターフェース

Document Rev.1.30

目次

表紙	1
目次	2
商標について	5
本書について	7
第 1 章 コマンドラインインターフェースについて	8
1.1 動作環境	8
1.2 実行方法	9
1.2.1 コマンド実行時の注意事項	9
1.3 実行結果	10
1.4 実行例	10
第 2 章 コマンド一覧	11
2.1 グループ管理系コマンド	11
2.1.1 getGroupList	11
2.1.2 createGroup	11
2.1.3 deleteGroup	11
2.1.4 getGroupServerList	12
2.1.5 setGroupProperty	12
2.1.6 getGroupProperty	13
2.1.7 getGroupFaultCondition	13
2.1.8 groupPowerOn	14
2.1.9 groupPowerOff	15
2.1.10 groupReset	15
2.1.11 groupPowerCycle	17
2.1.12 groupShutdownOs	18
2.1.13 groupDumpSwitch	19
2.1.14 groupSetPowerRestoreDelay	20
2.1.15 getGroupRemoteKvmLicenseList	21
2.2 サーバ管理系コマンド	22
2.2.1 getServerList	22
2.2.2 getServerNameByMacAddr	23
2.2.3 getServerNameByGuid	23
2.2.4 findNewServer	24
2.2.5 findNewServerNetAddr	25
2.2.6 createServer	26
2.2.7 deleteServer	26
2.2.8 checkConnection	27
2.2.9 findRegServer	27
2.2.10 setServerPropertyToDefault	28
2.2.11 setServerProperty	29
2.2.12 changeServerGroup	31
2.2.13 getServerGroup	31
2.2.14 setCurrentPort	31
2.2.15 getServerProperty	32
2.2.16 getServerInfo	33
2.2.17 getDeviceId	34
2.2.18 getGuid	34
2.2.19 getComputerName	35
2.2.20 getProductName	35
2.2.21 getSoftwareInfo	36
2.2.22 changeShutdownPolicy	36

2.2.23	getShutdownPolicy.....	37
2.2.24	setPowerRestoreDelay	38
2.2.25	getPowerRestoreDelay	38
2.2.26	changeBmcInfo	39
2.2.27	getBmcInfo.....	43
2.2.28	changeAuthKey.....	44
2.2.29	getAgentLog.....	44
2.2.30	testAlert.....	45
2.2.31	getTestAlertStatus	46
2.2.32	getFaultCondition.....	47
2.2.33	resetFaultCondition	47
2.2.34	getPowerStatus	48
2.2.35	getStatusLamp.....	48
2.2.36	getPanelInfo	49
2.2.37	powerOn.....	50
2.2.38	powerOff	51
2.2.39	reset	52
2.2.40	powerCycle	53
2.2.41	shutdownOs.....	54
2.2.42	dumpSwitch.....	54
2.2.43	clearSel.....	55
2.2.44	identifyChassis	55
2.2.45	getIpmiInfo.....	56
2.2.46	getSensorList.....	56
2.2.47	getSensorStatus	57
2.2.48	getConsoleLog	57
2.2.49	changeBmcIpSync.....	58
2.2.50	getBmcIpSync	59
2.2.51	getBladeSlotId.....	59
2.2.52	changeBmcIpAddressLan1	60
2.2.53	changeBmcIpAddressLan2	60
2.2.54	getFtStatusLamp.....	61
2.2.55	ftPowerOff.....	61
2.2.56	ftPowerCycle.....	62
2.3	EM カード管理系コマンド	63
2.3.1	getEmCardList	63
2.3.2	getEmActiveState.....	64
2.3.3	identifyEm	64
2.3.4	getEmStatusLamp	65
2.4	筐体管理系コマンド	66
2.4.1	getBladeEnclosureList	66
2.4.2	getChassisSlotState	66
2.4.3	getChassisInfo	67
2.4.4	setChassisProperty	68
2.4.5	getChassisProperty	68
2.4.6	setBladeAutoSetting.....	69
2.4.7	getBladeAutoSetting	70
2.5	通信管理系コマンド	71
2.5.1	connect	71
2.5.2	disconnect.....	71
2.5.3	getConnectionStatus.....	71
2.6	環境設定系コマンド	72
2.6.1	setOption	72
2.6.2	getOption.....	73
2.6.3	getPermitIpAddrList.....	74

2.6.4	isPermitIpAddr.....	74
2.6.5	addPermitIpAddr.....	75
2.6.6	removePermitIpAddr.....	75
2.6.7	clearPermitIpAddr.....	75
2.7	ユーザ管理系コマンド.....	76
2.7.1	createUser.....	76
2.7.2	removeUser	76
2.7.3	getUserList	76
2.7.4	setUserProperty	77
2.7.5	getUserProperty.....	78
2.8	その他のコマンド.....	79
2.8.1	getApplicationLog.....	79
2.8.2	addLicenseKey	79
2.8.3	about.....	79
2.8.4	help.....	80

商標について

DianaScope は日本電気株式会社の登録商標です。EXPRESSBUILDER と ESMPRO、ExpressPicnic、CLUSTERPRO、EXPRESSSCOPE は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Windows NT、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Pentium は米国 Intel Corporation の登録商標です。Xeon は米国 Intel Corporation の商標です。Datalight は Datalight,Inc.の登録商標です。ROM-DOS は Datalight,Inc.の商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。AT は米国 International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Adaptec とそのロゴは米国 Adaptec,Inc.の登録商標です。SCSI Select は米国 Adaptec,Inc.の商標です。LSI-Logic、MegaRAID、Power Console Plus は米国 LSI Logic Corporation の登録商標または商標です。Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標または商標です。DLT と DLTtape は米国 Quantum Corporation の商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows Vista は Microsoft® Windows Vista™ Business operating system の略称です。Windows Server 2003 x64 Editions は Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition operating system の略です。Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Enterprise Edition operating system または、Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition operating system の略です。Windows XP x64 Edition は Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition operating system の略です。Windows XP は Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft Windows XP Professional operating system の略です。Windows 2000 は Microsoft® Windows® 2000 Server operating system および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略称です。Windows NT は Microsoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0 および Microsoft® Windows NT® Workstation operating system version 3.51/4.0 の略称です。Windows Me は Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System の略称です。Windows 98 は Microsoft® Windows® 98 operating system の略称です。Windows95 は Microsoft® Windows® 95 operating system の略称です。DOS は MS-DOS®または ROM-DOS®の略です。

本製品には、Sun Microsystems 社から無償で配布されている JRE (Java Runtime Environment)、Apache Software Foundation から無償で配布されている Tomcat、および AT&T ケンブリッジ研究所から無償で配布されている VNC (Virtual Network Computing)を含んでいます。これらの製品については、それぞれの使用許諾に同意した上でご利用願います。著作権、所有権の詳細については以下の LICENSE ファイルを参照してください。

Tomcat : <Tomcat をインストールしたディレクトリ>下の LICENSE

JRE : <JRE をインストールしたディレクトリ>下の LICENSE

本製品は、Getahead から無償で配布されている DWR、Prototype から無償で配布されている prototype.js を利用しています。著作権、所有権の詳細については以下の LICENSE ファイルを参照してください。

DWR(dwr.jar) : /dianascope/doc 下の ApacheLicense_v2.txt

prototype.js : /dianascope/doc 下の prototypejs_LICENSE.txt

■ **ご注意**

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、サーバ管理ユーティリティ「DianaScope」のコマンドラインインターフェースを説明しています。

コマンドインターフェースをご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象サーバ全般について、汎用的に説明しています。管理対象サーバの製品別の注意事項や制限事項は、管理対象サーバに添付されているユーザーズガイドまたは以下の URL を参照してください。

<http://www.nec.co.jp/products/DianaScope/>

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

- | | |
|--------------|---|
| 重要： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。 |
| チェック： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。 |
| ヒント： | 知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。 |

■ DianaScope のその他の説明について

本書に記載されていない、DianaScope のその他の説明については、以下の文書を参照してください。

- **DianaScope のインストールおよび管理対象サーバのセットアップ**
「DianaScope インストレーションマニュアル」を参照してください。本書の前に必ずお読みください。
- **リモート管理可能な装置（管理対象サーバ）**
「DianaScope 管理対象サーバ一覧」を参照してください。
- **Web ブラウザからの操作方法**
DianaScope のオンラインヘルプを参照してください。

最新の情報は以下の URL を参照してください。

<http://www.nec.co.jp/products/DianaScope/>

第1章 コマンドラインインターフェースについて

DianaScope コマンドラインインターフェースは DianaScope Manager が動作している装置上からコマンドラインによって管理対象サーバの制御を行うことができるコマンドセットを提供します。コマンドセットは Web ブラウザを利用して実行できる機能とほぼ同じ機能をカバーしています。

以下のコマンドがあります。

- **グループ管理系コマンド**
複数の管理対象サーバを一括管理するためのグループに関するコマンドです。
- **サーバ管理系コマンド**
リモート管理対象のサーバに関するコマンドです。
- **EM カード管理系コマンド**
EM カードに関するコマンドです。
- **筐体管理系コマンド**
リモート管理対象のサーバまたは EM カードを搭載している筐体に関するコマンドです。
- **通信管理系コマンド**
管理対象サーバと WAN 接続やダイレクト接続で接続するための設定を変更できます。
- **環境設定系コマンド**
DianaScope Manager の設定を参照したり変更したりします。
- **ユーザ管理系コマンド**
Web ブラウザ上で DianaScope を使用するユーザを管理します。
- **その他のコマンド**

1.1 動作環境

DianaScope コマンドラインインターフェースは、DianaScope Manager が動作している装置（DianaScope サーバと呼びます）上でのみ実行可能です。

DianaScope コマンドラインインターフェースを実行するためには、OS の管理者権限が必要です。

Windows の場合：Administrator 権限

Linux の場合：root 権限

.....

ヒント：

- DianaScope Manager の動作環境については「DianaScope インストレーションマニュアル」を参照してください。
-

1.2 実行方法

OS のコマンドプロンプトから以下のように入力することで、コマンドの実行を行います。

```
dsccli CommandName [Option, ...]
```

dsccli	DianaScope コマンドラインインターフェースのコマンドであることを示します。
CommandName	実行したいコマンド名を入力します。
Option	各コマンドで定められているオプションパラメータを入力します。

1.2.1 コマンド実行時の注意事項

以下にコマンドを入力するときの注意事項を示します。

(1) 特殊文字を入力する場合

オプションに空文字列を入力する場合や、&などの特殊文字を入力する場合は、入力文字列をダブルコーテーションで囲ってください。入力例を示します。

例 1: 空文字列の入力

```
dsccli setServerProperty MyServer SERVER_COMMENT ""
```

例 2: 特殊文字の入力

```
dsccli setServerProperty MyServer CFG_SERIAL_INIT "ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0"
```

(2) MAC アドレスを入力する場合

MAC アドレスを入力する場合は、各オクテットをハイフンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dsccli getServerProperty 00-30-13-16-cd-fe SERVER_IP_1
```

(3) GUID を入力する場合

GUID を入力する場合は、各セクションをハイフンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dsccli getServerProperty 80c03228-35d8-d711-8001-003013f10072 SERVER_IP_1
```

チェック：

- 各コマンドの Server オプション で MAC アドレスまたは GUID を指定する入力方法は接続チェック実施後に利用可能になります。

ヒント：

- 各コマンドの Server オプション で MAC アドレスまたは GUID を指定する入力方法は DianaScope Manager Ver.1.03.05 以降でサポートしています。

1.3 実行結果

すべてのコマンドは終了ステータスを返します。またエラーが発生した場合は、エラーメッセージを返します。

すべてのコマンドの終了ステータスは以下の通りとなっています。

0 : 正常終了
0 以外 : 異常終了

各コマンドでエラーが発生した場合、終了ステータスとして 0 以外の値が返され、エラーメッセージが表示されます。またメッセージによってはエラー要因メッセージが続きます。

.....
ヒント :

- シェルスクリプトでコマンドを実行する場合、Windows では「ERRORLEVEL」、Linux では「\$?」で終了ステータスを確認できます。
-

1.4 実行例

1 台の管理対象サーバを LAN 経由で管理するためのコマンド発行手順を示します。

- (1) addLicenseKey で登録可能な管理対象サーバ数を拡張するためのサーバライセンスのキーを登録します。
- (2) createGroup で グループを作成します。
- (3) createServer で 管理対象サーバを登録します。
- (4) checkConnection で管理対象サーバの接続チェックを行います。

接続チェックが正常終了すると、DianaScope で管理対象サーバをリモート管理できるようになります。

第2章 コマンド一覧

2.1 グループ管理系コマンド

2.1.1 getGroupList

Syntax:

```
dscli getGroupList
```

Description:

登録されているグループ名の一覧を表示します。

Output:

グループ一覧を表示します。表示例を示します。

```
Group1
Group2
Group3
:
:
```

2.1.2 createGroup

Syntax:

```
dscli createGroup GroupName
```

Description:

新しいグループを作成します。グループの最大数は登録できる管理対象サーバの数と同じです。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

最大 20 文字までの名前を入力できます。

2.1.3 deleteGroup

Syntax:

```
dscli deleteGroup GroupName
```

Description:

指定されたグループを削除します。グループに所属する管理対象サーバもすべて削除します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

2.1.4 getGroupServerList

Syntax:

`dscli getGroupServerList GroupName`

Description:

指定されたグループに所属する管理対象サーバの一覧を表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

指定されたグループに所属する管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Server1
Server2
Server3
:
:
```

2.1.5 setGroupProperty

Syntax:

`dscli setGroupProperty GroupName PropertyName Value`

Description:

指定されたグループのグループプロパティを設定します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。

PropertyName	意味	指定方法	初期値
GROUP_NAME	グループ名です。	16 文字まで	(なし)
GROUP_COMMENT	グループに関する説明です。	100 文字まで	空白

Value

新たに設定する値を指定します。

2.1.6 getGroupProperty

Syntax:

```
dscli getGroupProperty GroupName PropertyName
```

Description:

指定されたグループのグループプロパティを表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティのキー名を指定します。グループプロパティの一覧については2.1.5 setGroupPropertyを参照してください。

Output:

指定されたグループプロパティを表示します。

2.1.7 getGroupFaultCondition

Syntax:

```
dscli getGroupFaultCondition GroupName
```

Description:

指定されたサーバグループの障害状態を表示します。

サーバ監視機能や障害メッセージ監視機能で異常を検出した場合に、障害状態が設定されます。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

指定されたサーバグループの障害状態を表示します。障害状態は以下の3種類です。

NORMAL	正常
WARNING	管理対象サーバに以下の異常が検出された。 <ul style="list-style-type: none">- 電源 OFF- STATUS ランプ点灯・点滅- 障害メッセージのコンソールへの出力
ERROR	通信障害発生。または接続チェックが未実施。

2.1.8 groupPowerOn

Syntax:

```
dscli groupPowerOn GroupName ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を ON にします。

重要:

- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、電源 ON 後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

ヒント:

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Server1 : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2 : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.9 groupPowerOff

Syntax:

```
dscli groupPowerOff GroupName
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を強制的に OFF にします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。

チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。

表示例を示します。

```
Server1 : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2 : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.10 groupReset

Syntax:

```
dscli groupReset GroupName ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバを強制的にリセットします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、リセット後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、リセット後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。
サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。
サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

.....
ヒント :

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
 - FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
 - サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。
-

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.11 groupPowerCycle

Syntax:

```
dscli groupPowerCycle GroupName ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、電源 ON 後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

ヒント:

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.12 groupShutdownOs

Syntax:

```
dscli groupShutdownOs GroupName ["force"]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバ上の OS をシャットダウンします。
LAN 経由で実行する場合は、管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。

“force”オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき DianaScope Agent または ESMPRO/ServerAgent とは通信を行いません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

“force”

“force”を指定すると、強制シャットダウンを実行します。OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.13 groupDumpSwitch

Syntax:

`dscli groupDumpSwitch GroupName`

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバの DUMP スイッチを入れます。

.....
重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。

表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.14 groupSetPowerRestoreDelay

Syntax:

```
dscli groupSetPowerRestoreDelay GroupName DelayTime [Policy]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべての管理対象サーバについて、管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。

電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

重要:

- 管理対象サーバが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

DelayTime

AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。

-1 を指定した場合は、現在の値を変更しません。

Policy

AC-LINK を設定します。設定可能な値は 3 種類です。

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 100 | STAY_OFF | AC ON 時、DC OFF 状態になります。 |
| 101 | LAST_STATE | DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。
DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。 |
| 102 | ALWAYS_POWER_ON | AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。 |

Output:

エラーが発生した各管理対象サーバについてサーバ名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

Server1	: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Server2	: Connection to the server could not be made. (Authentication error)

2.1.15 getGroupRemoteKvmLicenseList

Syntax:

```
dscli getGroupRemoteKvmLicenseList GroupName
```

Description:

指定されたグループに所属する各管理対象サーバについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

各管理対象サーバについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を以下のように表示します。

Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されています。
Not Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されていません。
Unsupported	リモートマネージメント拡張ライセンスの対象ではありません。
-	リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を取得できませんでした。

表示例を示します。

Server1	Installed
Server2	Installed
Server3	Not Installed
Server4	Unsupported
:	
:	

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.06.04 以降でサポートしています。

2.2 サーバ管理系コマンド

2.2.1 getServerList

Syntax:

```
dscli getServerList ["d"]
```

Description:

DianaScope 上に登録された管理対象サーバの一覧を表示します。

Options:

"d"

"d"を指定すると、管理対象サーバの一覧に、サーバ名の他 GUID、MAC アドレスを表示します。また、以下の付加情報を表示します。

- ・ BMC が EXPRESSSCOPE エンジンシリーズの場合「EXPRESSSCOPE Engine series」と表示します。
- ・ 管理対象サーバ上の BMC がアドバンスドリモートマネジメントカードの場合「ARMC」と表示します。
- ・ 管理対象が Switch Blade である場合「SWB」と表示します。

.....
ヒント:

- ・ "d" オプションは DianaScope Manager Ver.1.02.00 以降でサポートしています。
-

Output:

DianaScope 上に登録された管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

(“d”オプションを指定しない場合)

```
Server1
Server2
Server3
:
:
```

(“d”オプションを指定した場合)

```
Server1
GUID: 02010202-0000-0000-0000-000000000000
MAC1: 00-30-13-f1-00-5a
MAC2: 00-30-13-f1-00-5b

Server2
GUID: 00301316-cdfe-0180-0010-846e8062d906
MAC1: 00-30-13-16-cd-fe

Server3
GUID: 00010203-0405-0607-0809-0a0b0c0d0e0f
MAC1: 00-00-4c-9f-13-cb
ARMC
:
:
```

2.2.2 getServerNameByMacAddr

Syntax:

```
dscli getServerNameByMacAddr MacAddress
```

Description:

指定された MAC アドレスに対応する管理対象サーバ名を表示します。

Options:

MacAddress

MAC アドレスを指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByMacAddr 00-30-13-f1-00-5a
```

Output:

サーバ名を表示します。表示例を示します。

```
Server1
```

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.05 以降でサポートしています。
-

2.2.3 getServerNameByGuid

Syntax:

```
dscli getServerNameByGuid GUID
```

Description:

指定された GUID に対応する管理対象サーバ名を表示します。

Options:

GUID

GUID を指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByGuid 00301316-cdfe-0180-0010-846e8062d906
```

Output:

サーバ名を表示します。表示例を示します。

```
Server2
```

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.05 以降でサポートしています。
-

2.2.4 findNewServer

Syntax:

```
dscli findNewServer StartIpAddr EndIpAddr
```

Description:

DianaScope 上に登録されていない管理対象サーバをネットワーク上から検索します。指定された IP アドレス範囲の管理対象サーバを検索します。

ヒント:

- findNewServer、findNewServerNetAddr でみつかった管理対象サーバを DianaScope に登録する場合、createServer を使用します。2.2.6 createServerを参照してください。

Options:

StartIpAddr

IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。

Output:

発見した管理対象サーバの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Status: SUCCESS

No.1
1st IP Address      : 192.168.14.18
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.18
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 84ee20b0-84a1-d511-0080-a0ff94470300

No.2
1st IP Address      : 192.168.14.19
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.19
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 00004c79-45c0-0180-0010-f57f80d8cef8
:
:
```


2.2.5 findNewServerNetAddr

Syntax:

```
dscli findNewServerNetAddr NetAddr NetMask
```

Description:

DianaScope 上に登録されていない管理対象サーバをネットワーク上から検索して表示します。指定されたネットワークアドレスにより管理対象サーバを検索します。

.....
ヒント :

- findNewServer、findNewServerNetAddr でみつかった管理対象サーバを DianaScope に登録する場合、createServer を使用します。2.2.6 createServerを参照してください。
-

Options:

NetAddr

ネットワークアドレスを指定します。

NetMask

ネットワークマスクを指定します。

Output:

発見した管理対象サーバ一覧を表示します。表示内容は findNewServer と同じです。2.2.4 findNewServerを参照してください。

2.2.6 createServer

Syntax:

```
dscli createServer ServerName GroupName AuthKey [IpAddr1] [IpAddr2]
```

Description:

DianaScope に新規に管理対象サーバを登録します。登録できる管理対象サーバ数はサーバライセンス数によります。

ヒント:

- サーバライセンスの追加は2.8.2 addLicenseKeyで行うことができます。

Options:

ServerName

DianaScope 上で管理対象サーバを管理するための名前（サーバ名）を指定します。
最大 15 文字までの名前を入力できます。

GroupName

管理対象サーバの所属グループを指定します。

AuthKey

管理対象サーバの認証キーを指定します。16 文字までの認証キーを指定してください。
管理対象サーバの BMC コンフィグレーションで設定した認証キーを入力してください。

IpAddr1

管理対象サーバの BMC の IP アドレスを指定します。管理対象サーバと LAN 経由で通信しない場合、このオプションは省略できます。

IpAddr2

管理対象サーバの BMC の予備の IP アドレスを指定します。このオプションは省略できます。

ヒント:

- サーバプロパティのその他の項目は、2.2.11 setServerPropertyで設定してください。

2.2.7 deleteServer

Syntax:

```
dscli deleteServer Server
```

Description:

DianaScope Manager に登録された管理対象サーバを削除します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.8 checkConnection

Syntax:

```
dscli checkConnection Server ["new"]
```

Description:

管理対象サーバの BMC と通信して接続確認を行います。また、リモート管理のために必要な情報を管理対象サーバから収集します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"new"

管理対象サーバを置き換えた場合は"new"を指定して接続確認を行ってください。

2.2.9 findRegServer

Syntax:

```
dscli findRegServer Server(1) [Server(2)]... [Server(N)]
```

Description:

登録済みの管理対象サーバをネットワーク上から検索します。サーバプロパティで指定されたサブネットマスクの範囲で検索を実行します。管理対象サーバの IP アドレスが変更されていた場合は、サーバプロパティの IP アドレス設定を更新します。
このコマンドは接続チェックを実施済みで、かつ、接続形態に LAN が選択されている管理対象サーバを検索できます。

Options:

Server

検索する管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。このオプションは複数指定できます。

Output:

発見した管理対象サーバの一覧を「Find Server」として表示します。発見できなかった管理対象サーバの一覧を「Stray Server」として表示します。

2.2.10 setServerPropertyToDefault

Syntax:

```
dscli setServerPropertyToDefault Server PropertyName
```

Description:

管理対象サーバのサーバプロパティを初期値に戻します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

PropertyName

初期値に戻すサーバプロパティの名前を指定します。以下に初期値に設定可能なサーバプロパティの一覧を示します。ALL を指定した場合は、初期値に設定可能な全てのサーバプロパティを初期値に戻します。

PropertyName	意味	指定方法	初期値
CONSOLE_LOG_ENABLE	コンソールログ取得の有効 / 無効を示します。コンソールログは、リモートコンソールの画面データをテキスト形式で保存する機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_SIZE	コンソールログの最大容量を KB 単位で指定します。	4 - 1000	64
CONSOLE_LOG_KEEP_CONNECTION	Web ブラウザでリモートコンソールを開いていない時でもコンソールログ取得を行う機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_MONITORING	コンソールログに対する障害メッセージ監視の有効 / 無効を示します。障害メッセージ監視は、コンソールログに記録される各行の先頭に障害メッセージ識別子が検出された場合に、その管理対象サーバの障害状態をセットする機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_IDENTIFIER	障害メッセージ監視のための文字列（障害メッセージ識別子）を指定します。	20 文字まで	</BP>
RC_SERVER_REMOTE_BOOT	ユーティリティブートで使用するリモートブートメディアを示します。	0: 未使用 1: リモート FD 2: ネットワーク	0
RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE	リモート FD ブートに使用する FD イメージファイルを指定します。	ファイル名(パス指定を含む)	空白
SERVER_CURRENT_PORT_TYPE	DianaScope Manager から管理対象サーバへの通信の接続形態を指定します。	0: LAN 1: ダイレクト 2: モデム	0

2.2.11 setServerProperty

Syntax:

```
dscli setServerProperty Server PropertyName Value
```

Description:

管理対象サーバのサーバプロパティを変更します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。

PropertyName	意味	指定方法	初期値
CONSOLE_LOG_ENABLE	コンソールログ取得の有効 / 無効を示します。コンソールログは、リモートコンソールの画面データをテキスト形式で保存する機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_SIZE	コンソールログの最大容量を KB 単位で指定します。	4 - 1000	64
CONSOLE_LOG_KEEP_CONNECTION	Web ブラウザでリモートコンソールを開いていない時でもコンソールログ取得を行う機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_MONITORING	コンソールログに対する障害メッセージ監視の有効 / 無効を示します。障害メッセージ監視は、コンソールログに記録される各行の先頭に障害メッセージ識別子が検出された場合に、その管理対象サーバの障害状態をセットする機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_IDENTIFIER	障害メッセージ監視のための文字列（障害メッセージ識別子）を指定します。	20 文字まで	</BP>
RC_SERVER_REMOTE_BOOT	ユーティリティブートで使用するリモートブートメディアを示します。	0: 未使用 1: リモート FD 2: ネットワーク	0
RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE	リモート FD ブートに使用する FD イメージファイルを指定します。	ファイル名(パス指定を含む)	空白
SERVER_NAME *1	管理対象サーバの表示名です。	15 文字まで	(なし)
SERVER_COMMENT *1	管理対象サーバに関する説明です。	100 文字まで	空白
SERVER_AUTHKEY *1	管理対象サーバの BMC と通信するための認証キーです。	16 文字まで	(なし)
SERVER_CURRENT_PORT_TYPE	DianaScope Manager から管理対象サーバへの通信の接続形態を指定します。EM カードの場合、LAN 以外は指定できません。	0: LAN 1: ダイレクト 2: モデム	0
SERVER_IP_1 *1	LAN 接続のための IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0

PropertyName	意味	指定方法	初期値
SERVER_IP_2	LAN 接続のための予備の IP アドレスです	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_CURRENT_IP *1	LAN 接続のための現在使用中の IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_SUBNETMASK_1 *1	LAN 接続のサブネットマスクです。	IP アドレス形式	255.255. .255.0
SERVER_SUBNETMASK_2	LAN 接続の予備の IP アドレスのサブネットマスクです	IP アドレス形式	255.255. .255.0
SERVER_PHONE_NUMBER	モデム接続を行うための電話番号です。	19 文字まで	空白

*1 EM カードに設定可能なプロパティです。

Value

新たに設定する値を指定します。

重要：

- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合、プロパティ「RC_SERVER_REMOTE_BOOT」を設定してもリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバー一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合、プロパティ「RC_SERVER_REMOTE_BOOT」を設定してもネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバー一覧」でご確認ください。

ヒント：

- 管理対象サーバが所属するグループを変更する場合は 2.2.12 changeServerGroup を使用してください。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。

2.2.12 changeServerGroup

Syntax:

```
dscli changeServerGroup Server OldGroupName NewGroupName
```

Description:

管理対象サーバの所属グループを変更します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

OldGroupName

管理対象サーバが現在所属しているグループの名前を指定します。

NewGroupName

新しいグループの名前を指定します。

2.2.13 getServerGroup

Syntax:

```
dscli getServerGroup Server
```

Description:

管理対象サーバが所属するグループ名を表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

管理対象サーバが所属するグループ名を表示します。

2.2.14 setCurrentPort

Syntax:

```
dscli setCurrentPort Server Connection
```

Description:

管理対象サーバとの接続形態を変更します。

EM カードの場合、LAN 以外は指定できません。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Connection

管理対象サーバと通信を行う接続形態を指定します。

LAN (または 0)	LAN 経由で接続
SERIAL (または 1)	シリアルポートをダイレクト接続
MODEM (または 2)	モデム経由で接続

2.2.15 getServerProperty

Syntax:

```
dscli getServerProperty Server PropertyName
```

Description:

管理対象サーバの指定されたサーバプロパティを表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

PropertyName

取得するサーバプロパティの名前を指定します。2.2.11 setServerPropertyを参照してください。

Output:

管理対象サーバの指定されたサーバプロパティを表示します。

2.2.16 getServerInfo

Syntax:

```
dscli getServerInfo Server
```

Description:

指定された管理対象サーバについて、主なサーバプロパティの項目を出力します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

指定された管理対象サーバについて、主なサーバプロパティの項目を表示します。
表示される情報を示します。

項目名	意味
Server Name	管理対象サーバの名前です。
Comments	管理対象サーバについての説明です。
Group	管理対象サーバが所属するグループ名です。
Connection Type	管理対象サーバとの接続形態です。
Check Connection	接続チェックを実施済みの場合は Completed と表示します。
Current IP Address	LAN 接続のための現在使用中の管理対象サーバの IP アドレスです。
Failover	片方の IP アドレスへの通信がエラーになった場合にもう一方の IP アドレスに切り替えて通信を続行するフェイルオーバー機能の有効 / 無効を示します。
LAN1 IP Address	LAN 接続のための管理対象サーバの IP アドレスです。
LAN1 Subnet Mask	LAN 接続のための管理対象サーバのサブネットマスクです。
LAN2 IP Address	LAN 接続のための管理対象サーバの予備の IP アドレスです。
LAN2 Subnet Mask	LAN 接続のための管理対象サーバの予備の IP アドレスのサブネットマスクです。
Phone Number	管理対象サーバの電話番号です。
Product Name	管理対象サーバの製品名です。
Serial Number	管理対象サーバの号機番号です。
GUID	管理対象サーバの個体識別用 ID です。
IPMI Version	管理対象サーバの IPMI バージョンです。
Remote KVM and Media License	管理対象サーバのリモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況です。この項目は管理対象サーバが EXPRESSSCOPE エンジンシリーズを搭載している場合のみ表示されます。 出力内容については、2.1.15getGroupRemoteKvmLicenseListの説明を参照してください。
Chassis Name	サーバが搭載されている筐体名。管理対象サーバが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Slot Number	サーバが搭載されているスロット番号。管理対象サーバが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Blade Width	ブレードの幅。スロット枚数で示します。管理対象サーバが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Blade Height	ブレードの高さ。スロット枚数で示します。管理対象サーバがブレード高の情報を持っている場合に表示されます。
Blade Name	ブレード名。管理対象サーバがブレード名の情報を持っている場合に表示されます。

.....
ヒント :

- Remote Kvm and Media License 項目は DianaScope Manager Ver.1.06.04 以降でサポートしています。
 - Chassis Name, Slot Number, Blade Width, Blade Height, Blade Name の各項目は DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートされています。
-

2.2.17 getDeviceId

Syntax:

```
dscli getDeviceId Server
```

Description:

管理対象サーバのマネージメントコントローラ情報を取得します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

デバイス ID の表示例を示します。

Device ID	: 20H
Device Rev.	: 1
Fw Rev.	: 00.08
Manufacturer ID	: 119
Product ID	: 2c3H

2.2.18 getGuid

Syntax:

```
dscli getGuid Server
```

Description:

管理対象サーバの GUID を取得します。GUID は個体識別用の ID です。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

GUID を表示します。

2.2.19 getComputerName

Syntax:

```
dscli getComputerName Server
```

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーションで設定されているコンピュータ名を取得します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンピュータ名を表示します。表示例を示します。

Computer Name : host1

2.2.20 getProductName

Syntax:

```
dscli getProductName Server
```

Description:

管理対象サーバの製品名と号機番号を取得します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

以下の情報を表示します。

ProductName 管理対象サーバの製品名です。

SerialNumber 管理対象サーバの号機番号です。

2.2.21 getSoftwareInfo

Syntax:

```
dscli getSoftwareInfo Server
```

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のバージョン、OS のバージョン、BIOS のバージョン、LAN ドライバのバージョンを取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

バージョン情報を表示します。表示例を示します。

Agent	Version : DianaScopeAgent-1.02.00
BIOS	Version : 6.0.0106
OS	Version : Windows 2000 Service Pack 3
LAN driver	Version : 5.0.2175.1

2.2.22 changeShutdownPolicy

Syntax:

```
dscli changeShutdownPolicy Server KeyName Value
```

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のシャットダウン設定を変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

KeyName

変更するシャットダウン設定項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新しい値を指定します。一覧を参照してください

KeyName	意味	指定方法
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE	スケジュール運転による OS シャットダウンを実行する際に AC-LINK を Always Power On に設定	0: 無効, 1: 有効
SCH_AC_LINK	AC-LINK 設定値 (setPowerRestoreDelay コマンドと同じ働きをします)	0: 常に OFF 1: 以前の DC 状態 2: 常に ON

KeyName	意味	指定方法
SCH_DC_OFF_ENABLE	OS シャットダウン後に強制電源 OFF を実行 (OS シャットダウン後も電源 ON 状態のままとなる管理対象サーバの場合、有効に設定することで DianaScope Agent が管理対象サーバを OS シャットダウンする時に電源も OFF にします。)	0: 無効 1: 有効
SCH_DC_OFF_DELAY	SCH_DC_OFF_ENABLE が有効の場合、OS シャットダウン後の強制電源 OFF までの時間 (分)	5 - 60
SCH_SHUTDOWN_ENABLE	スケジュール運転で指定された休止期間中に電源 ON されたときに、自動シャットダウンを実行	0: 無効 1: 有効
SCH_SHUTDOWN_WAIT	OS シャットダウンコマンド実行から、実際に OS シャットダウンが開始されるまでの猶予時間 (秒)	20 - 200

2.2.23 getShutdownPolicy

Syntax:

```
dscli getShutdownPolicy Server
```

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent のシャットダウン設定を取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

シャットダウン設定を表示します。詳細は、2.2.22 changeShutdownPolicyを参照してください。表示例を示します。

```
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE=0
SCH_AC_LINK=1
SCH_DC_OFF_ENABLE=1
SCH_DC_OFF_DELAY=10
SCH_SHUTDOWN_ENABLE=1
SCH_SHUTDOWN_WAIT=60
```

2.2.24 setPowerRestoreDelay

Syntax:

```
dscli setPowerRestoreDelay Server DelayTime [Policy]
```

Description:

管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。
電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

.....
重要：

- 管理対象サーバが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
-

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

DelayTime

AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。
-1 を指定した場合は、現在の値を変更しません。

Policy

AC-LINK を設定します。設定可能な値は 3 種類です。

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 100 | STAY_OFF | AC ON 時、DC OFF 状態になります。 |
| 101 | LAST_STATE | DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。
DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。 |
| 102 | ALWAYS_POWER_ON | AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。 |

2.2.25 getPowerRestoreDelay

Syntax:

```
dscli getPowerRestoreDelay Server
```

Description:

管理対象サーバが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定の内容を取得して表示します。
電源オプション設定の詳細は2.2.24 setPowerRestoreDelayを参照してください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

電源オプション設定を表示します。表示例を示します。

POLICY	: LAST_STATE
Power Restore Delay	: 30 sec
Power Restore Delay(default)	: 0 sec

2.2.26 changeBmcInfo

Syntax:

```
dscli changeBmcInfo Server KeyName Value
```

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報を変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

ヒント:

- 認証キーおよびモデム経由通報の通報先パスワードを変更する場合は changeAuthKey を使用します。2.2.28 changeAuthKey を参照してください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

KeyName

変更する BMC コンフィグレーション項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新しい値を指定します。一覧を参照してください。

KeyName	意味	指定方法
CFG_COMPUTER_NAME	共通：コンピュータ名	15 文字まで
CFG_COMMUNITY	共通：コミュニティ名	16 文字まで
CFG_ALERT_ALL	共通：通報	0: 無効 1: 有効
CFG_POLICY	共通：通報手順	1: 1つの通報先のみ 2: すべての通報先
CFG_ALERT_LEVEL	共通：通報レベル	0: 通報なし 1 - 6: 通報レベル 1 - 6
CFG_LAN_CONTROL_LAN1	共通：リモート制御 (LAN1)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_CONTROL	共通：リモート制御 (WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_REDIRECTION	共通：リダイレクション (LAN)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_REDIRECTION	共通：リダイレクション (WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_CONTROL_LAN2	共通：リモート制御 (LAN2)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_ALERT_POLICY_LAN	共通：LAN 通報設定 LAN1/LAN2 優先	0: LAN1 優先 1: LAN2 優先

KeyName	意味	指定方法
CFG_LAN_ALERT_POLICY_DESTINATION	共通：LAN 通報設定 LAN/通報先 優先	0: LAN 優先 1: 通報先優先
CFG_DHCP	LAN1:IP アドレスを自動 的に取得する (DHCP)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_IP_LAN1	LAN1:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN1	LAN1:サブネットマス ク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1	LAN1:デフォルトゲート ウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1	LAN1: 1 次通報先/管理用 PC(1) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1	LAN1: 1 次通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1	LAN1: 3 次通報先/管理用 PC(3) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1	LAN1: 3 次通報先/管理用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1	LAN1:通報リトライ回 数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1	LAN1:通報タイムアウト (秒単位)	3 - 30
CFG_DHCP_LAN2	LAN2:IP アドレスを自動 的に取得する (DHCP)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_IP_LAN2	LAN2:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN2	LAN2:サブネットマス ク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN2	LAN2:デフォルトゲート ウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN2	LAN2: 1 次通報先/管理用 PC(1) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN2	LAN2: 1 次通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN2	LAN2: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	指定方法
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN2	LAN2: 2 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN2	LAN2: 3 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(3) 通 報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN2	LAN2: 3 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN2	LAN2:通報リトライ回 数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN2	LAN2:通報タイムアウ ト (秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_MODE	WAN/ダイレクト : モ ード	1: ダイレクト, 2: モデム
CFG_SERIAL_BAUDRATE	WAN/ダイレクト : ボーレート	1: 9600bps 2: 19.2Kbps 3: 57.6Kbps 4: 115.2Kbps
CFG_SERIAL_FLOW_CONTROL	WAN/ダイレクト : フロー制御	1: なし 2: RTS/CTS 3: XON/XOFF
CFG_SERIAL_DIAL_MODE	WAN/ダイレクト : ダイヤルモード	1: パルス, 2: トーン
CFG_SERIAL_INIT	WAN/ダイレクト : 初期化コマンド	48 文字まで
CFG_SERIAL_HANG_UP	WAN/ダイレクト : ハングアップコマン ド	8 文字まで
CFG_SERIAL_DTR_HANG_UP	WAN/ダイレクト : DTR ハングアップ	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_ESCAPE_CODE	WAN/ダイレクト : エスケープコード	1 文字
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト : 通報設定 ダイヤルリ トライ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト : 通報設定 ダイヤル間 隔 (秒単位)	60 - 240
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト : 通報設定 通報リトラ イ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト : 通報設定 通報タイム アウト(秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_ALERT_PPP1	WAN/ダイレクト : 通報設定 PPP サーバ 1 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP1	WAN/ダイレクト : 通報設定 PPP サーバ 1 電話番号	19 文字まで

KeyName	意味	指定方法
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 1 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_ALERT_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 2 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 2 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 2 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP サーバ 2 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_MANAGE1_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 1 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE2_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 2 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE3_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 3 次通報先	IP アドレス形式
CFG_PAGER_MANAGE1_ALERT	ページャ： 1 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE1_DIAL_NUMBER	ページャ： 1 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MANAGE2_ALERT	ページャ： 2 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE2_DIAL_NUMBER	ページャ： 2 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MESSAGE	ページャ： ページャメッセージ	29 文字まで
CFG_PAGER_TIMEOUT	ページャ： ガイドメッセージ待ち時間(2 秒単位)	0 - 30

.....

ヒント：

- 管理対象サーバが EXPRESSSCOPE エンジンシリーズを搭載している場合、キー名“CFG_DHCP”は DianaScope Manager Ver.1.07.01 以降でサポートしています。また、DianaScope Agent Ver.2.03.05 以降でサポートしています。
 - 管理対象サーバがアドバンスドリモートマネージメントカードを搭載している場合、キー名“CFG_DHCP”は DianaScope Manager Ver.1.11.00 以降でサポートしています。また、DianaScope Agent Ver.2.06.00 以降でサポートしています。
 - 管理対象サーバが ft リモートマネージメントカードを搭載している場合、キー名“CFG_DHCP”および“CFG_DHCP_LAN2”は DianaScope Manager Ver.1.11.00 以降でサポートしています。また、DianaScope Agent Ver.2.06.00 以降でサポートしています。
 - DianaScope Agent がサポートしていないキー名を使用してこのコマンドを発行した場合、コマンドは正常終了しますが、設定は変更されません。
-

2.2.27 getBmcInfo

Syntax:

```
dscli getBmcInfo Server
```

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報を取得します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

BMC コンフィグレーション情報を表示します。詳細は、2.2.26 changeBmcInfoを参照してください。表示例を示します。

```
CFG_COMPUTER_NAME=Server1
CFG_COMMUNITY=public
CFG_ALERT_ALL=1
CFG_POLICY=1
CFG_ALERT_LEVEL=4
CFG_LAN_REDIRECTION=1
CFG_LAN_CONTROL_LAN1=1
CFG_SERIAL_REDIRECTION=1
CFG_SERIAL_CONTROL=1
CFG_LAN_IP_LAN1=192.168.14.14
CFG_LAN_SUBNET_LAN1=255.255.255.0
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1=192.168.14.1
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1=3
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1=6
:
```

2.2.28 changeAuthKey

Syntax:

```
dscli changeAuthKey Server OldPassword NewPassword SelectAuthKey
```

Description:

管理対象サーバの BMC コンフィグレーション情報に設定されている認証キーまたはモデム経由通報先である PPP サーバのパスワードを変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

ヒント:

- 認証キーを変更した場合は、このコマンドが正常終了した後、2.2.11 setServerProperty で DianaScope 上に登録している認証キーを変更してください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

OldPassword

現在の認証キーまたはパスワードを入力します。

NewPassword

新しい認証キーまたはパスワードを入力します。

16 文字までの認証キーまたはパスワードを指定してください。

SelectAuthKey

変更する認証キーまたはパスワードの種類を指定します。

- | | |
|---|-----------------|
| 0 | 認証キー |
| 1 | PPP サーバ 1 パスワード |
| 2 | PPP サーバ 2 パスワード |

2.2.29 getAgentLog

Syntax:

```
dscli getAgentLog Server
```

Description:

DianaScope Agent のアプリケーションログを取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

DianaScope Agent のアプリケーションログを表示します。

2.2.30 testAlert

Syntax:

```
dscli testAlert Server Target
```

Description:

管理対象サーバに通報テストを実行させます。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

通報テストの結果は 2.2.31 getTestAlertStatus で確認してください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target

通報先を指定します。以下の数値によって通報先の指定を行います。

- | | |
|-----|-------------|
| 0: | LAN1 1 次通報先 |
| 1: | LAN1 2 次通報先 |
| 2: | LAN1 3 次通報先 |
| 3: | LAN2 1 次通報先 |
| 4: | LAN2 2 次通報先 |
| 5: | LAN2 3 次通報先 |
| 6: | PPP1 1 次通報先 |
| 7: | PPP1 2 次通報先 |
| 8: | PPP1 3 次通報先 |
| 9: | PPP2 1 次通報先 |
| 10: | PPP2 2 次通報先 |
| 11: | PPP2 3 次通報先 |
| 12: | ページャ 1 次通報先 |
| 13: | ページャ 2 次通報先 |

2.2.31 getTestAlertStatus

Syntax:

```
dscli getTestAlertStatus Server Target
```

Description:

通報テストの実行状態を取得します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target

状態を取得する通報先を指定します。通報先の指定については 2.2.30 testAlert を参照してください。

Output:

通報テストの実行状態を表示します。実行状態には以下の種類があります。

TEST_UNKNOWN	:不明
TEST_TESTING	:通報中
TEST_SUCCESS	:通報終了(正常終了)
TEST_ABORT	:通報失敗(異常終了)
TEST_CALL_FAILED	:通報失敗(ダイヤルアップ失敗)
TEST_TIMEOUT	:通報失敗(タイムアウト)
TEST_ERROR	:通報失敗(その他エラー)

通報中の場合の表示例を示します。

TEST_TESTING

2.2.32 getFaultCondition

Syntax:

```
dscli getFaultCondition Server
```

Description:

指定された管理対象サーバの障害状態と、その要因を表示します。
サーバ監視機能や障害メッセージ監視機能で異常を検出した場合に、障害状態が設定されます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

障害状態と、その要因を表示します。障害状態は以下の 3 種類です。

NORMAL	正常
WARNING	管理対象サーバに以下の異常が検出された。 <ul style="list-style-type: none">- 電源 OFF- STATUS ランプ点灯・点滅- 障害メッセージのコンソールへの出力
ERROR	通信障害発生。または接続チェックが未実施。

2.2.33 resetFaultCondition

Syntax:

```
dscli resetFaultCondition Server
```

Description:

指定された管理対象サーバの障害状態をリセットし、NORMAL に設定します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.34 getPowerStatus

Syntax:

`dscli getPowerStatus Server`

Description:

管理対象サーバの電源状態を取得して表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

電源状態を表示します。電源状態は以下の 2 種類です。

DC_ON	パワーオン
DC_OFF	パワーオフ

2.2.35 getStatusLamp

Syntax:

`dscli getStatusLamp Server [ModuleNo]`

Description:

管理対象サーバの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

ModuleNo

管理対象サーバが ft サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。
ModuleNo を指定しない場合は現在プライマリとして動作している CPU/IO モジュールの状態
が取得されます。

.....
ヒント:

- “ModuleNo” オプションは DianaScope Manager Ver.1.05.05 以降でサポートして
います。
-

Output:

管理対象サーバの STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の 7 種類です。

OFF	消灯
GREEN_ON	緑点灯
GREEN_BLINK	緑点滅
AMBER_ON	アンバー点灯
AMBER_BLINK	アンバー点滅
RED_ON	赤点灯
RED_BLINK	赤点滅

2.2.36 getPanelInfo

Syntax:

```
dscli getPanelInfo Server [ModuleNo]
```

Description:

管理対象サーバのフロントパネル情報として、電源状態、STATUS ランプ、LCD、ウォッチドッグタイマのシステム監視状態、システム通電累積時間を取得して表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

ModuleNo

管理対象サーバが ft サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。ModuleNo を指定しない場合は現在プライマリとして動作している CPU/IO モジュールの状態が取得されます。

ヒント:

- “ ModuleNo ” オプションは DianaScope Manager Ver.1.05.05 以降でサポートしています。

Output:

フロントパネル情報を表示します。表示例を示します。

Power Status	: S0_G0
STATUS Lamp	: GREEN_ON
LCD0	: Prepare To Boot
LCD1	:
Watchdog Status	: STARTED
Watchdog Use	: SMS_OS
Watchdog Interval	: 10 sec
POH	: 262920 min
:	:

2.2.37 powerOn

Syntax:

```
dscli powerOn Server ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

管理対象サーバの電源を ON にします。

また、管理対象サーバが POWER スイッチによって回復するスリープ状態にある場合は、このコマンドによりスリープ状態から回復できます。

重要:

- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、電源 ON 後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

ヒント:

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。

2.2.38 powerOff

Syntax:

```
dscli powerOff Server
```

Description:

管理対象サーバの電源を強制的に OFF にします。

.....
重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
-

.....
チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。緊急時は2.2.55 ftPowerOffを使用してください。
-

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.39 reset

Syntax:

```
dscli reset Server ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

管理対象サーバを強制的にリセットします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、リセット後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、リセット後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

ヒント:

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。

2.2.40 powerCycle

Syntax:

```
dscli powerCycle Server ["f" FileName | "p" | "u"]
```

Description:

管理対象サーバの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
- 管理対象サーバがリモート FD 機能をサポートしていない場合はリモート FD ブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。
- 管理対象サーバが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「DianaScope 管理対象サーバ一覧」でご確認ください。

チェック:

- 管理対象サーバが ft サーバの場合、このコマンドは実行できません。緊急時は 2.2.56ftPowerCycleを使用してください。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"f"

(推奨)

"f"を指定すると、リセット後、FD イメージファイルを起動します。

FileName

FD イメージファイルを指定します。パス指定を省略した場合はカレントディレクトリのファイルが設定されます。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

ヒント:

- "f"、"p"オプションは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。
- FD イメージファイルの作成は、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」から実行してください。
- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。

2.2.41 shutdownOs

Syntax:

```
dscli shutdownOs Server ["force"]
```

Description:

管理対象サーバ上の OS をシャットダウンします。

LAN 経由で実行する場合は、管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。

“force”オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき DianaScope Agent または ESMPRO/ServerAgent とは通信を行いません。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"force"

“force”を指定すると、強制シャットダウンを実行します。

OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

2.2.42 dumpSwitch

Syntax:

```
dscli dumpSwitch Server
```

Description:

管理対象サーバの DUMP スイッチを入れます。

.....
重要：

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.43 clearSel

Syntax:

```
dscli clearSel Server ["force"]
```

Description:

管理対象サーバのシステムイベントログ(SEL)領域をクリアします。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"force"

“force”を指定すると、管理対象サーバ上で ESMPRO/ServerAgent の自動バックアップサービスが動作している場合も、SEL 領域をクリアします。

2.2.44 identifyChassis

Syntax:

```
dscli identifyChassis Server Period ["Blink"]
```

Description:

管理対象サーバの筐体識別ランプを点灯させます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Period

点灯時間を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。

“Blink” オプションを指定した場合は、0-3600 の範囲で指定してください。

"Blink"

“Blink”を指定すると Period オプションで指定した時間筐体識別ランプを点滅させます。(管理対象サーバの筐体識別ランプの点灯 / 点滅方法は管理対象サーバの種類に依存しますが、“Blink” オプションを指定した場合は、DianaScope Manager が必ず点滅動作を指示します。)

“Blink” オプション を指定しない場合は、Period オプションで指定した時間によらずコマンドはすぐに終了しますが、“Blink” オプションを指定した場合は、Period オプションで指定した時間が過ぎるとコマンドが終了します。

.....
ヒント:

- “Blink” オプション を指定しない場合、Period オプションを 0 にしてコマンドを再発行すると、筐体識別ランプを消灯できます。
-

2.2.45 getIpmiInfo

Syntax:

```
dscli getIpmiInfo Server ReadType FileName
```

Description:

IPMI 情報を取得し、指定されたファイル名で保存します。

今回読み込まない種類の情報について、DianaScope が以前に読み込んだ情報を保持している場合は、合わせてファイルに保存します。

ヒント:

- 取得した IPMI 情報保存ファイルは、DianaScope に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」で表示できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

ReadType

読み込む情報の種類を指定します。以下の情報が読み込めます。

SEL	システムイベントログ情報
SDR	センサ装置情報
FRU	保守交換部品情報
MC	マネージメントコントローラ情報
ALL	SEL, SDR, FRU, MC の全ての情報

FileName

取得した情報を保存するファイル名(パス名)を指定します。

2.2.46 getSensorList

Syntax:

```
dscli getSensorList Server
```

Description:

あらかじめ2.2.45 getIpmiInfoでセンサ装置情報(SDR)を取得してください。SDR から現在の状態を取得可能なセンサの一覧を作成して表示します。一覧の先頭に、各センサの SDR レコード ID が表示されます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

センサの一覧を表示します。表示例を示します。

```
0001h: Sensor Type=Temperature(Front Panel Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0002h: Sensor Type=Temperature(Baseboard Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0003h: Sensor Type=Temperature(Processor 1 Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0004h: Sensor Type=Temperature(Processor 2 Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0005h: Sensor Type=Temperature(PwrDstBd Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
:
```


2.2.47 getSensorStatus

Syntax:

```
dscli getSensorStatus Server RecordId
```

Description:

管理対象サーバ上の指定されたセンサの状態を取得します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

RecordId

2.2.46 getSensorListにより表示されたセンサー一覧から、SDR レコード ID を指定します。

Output:

センサの状態を表示します。表示例を示します。

```
Current Value:
  30.00 degrees C
Current Status:
  Normal
Upper non-recoverable Threshold:
  ---
Upper critical Threshold:
  46.00 degrees C (Hysteresis:44.00 degrees C)
Upper non-critical Threshold:
  43.00 degrees C (Hysteresis:41.00 degrees C)
Lower non-critical Threshold:
  3.00 degrees C (Hysteresis:5.00 degrees C)
Lower critical Threshold:
  0.00 degrees C (Hysteresis:2.00 degrees C)
Lower non-recoverable Threshold:
  ---
```

2.2.48 getConsoleLog

Syntax:

```
dscli getConsoleLog Server
```

Description:

管理対象サーバのコンソールログを表示します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンソールログを表示します。

2.2.49 changeBmcIpSync

Syntax:

`dscli changeBmcIpSync Server Value`

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用する管理対象サーバの場合、OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効 / 無効を変更します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Value

同期設定の有効 / 無効を指定します。

0	無効
1	有効

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.00 以降でサポートしています。
 - このコマンドは DianaScope Agent Ver.1.09 以降でサポートしています。1.08 以前の DianaScope Agent に対してこのコマンドを発行した場合、コマンドは正常終了しますが、設定は変更されません。
 - BMC が専用 LAN ポート (管理 LAN 用ポート) を使用する管理対象サーバ上の DianaScope Agent に対してこのコマンドを発行した場合、コマンドは正常終了しますが、何も設定されません。
-

2.2.50 getBmcIpSync

Syntax:

```
dscli getBmcIpSync Server
```

Description:

管理対象サーバ上の DianaScope Agent の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用する管理対象サーバの場合、OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に IP アドレスを比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効 / 無効を取得して表示します。このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

同期設定の有効 / 無効を表示します。

Enable	有効
Disable	無効

表示例を示します。

```
Agent Config (BMC IP Sync) : Enable
```

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.00 以降でサポートしています。

2.2.51 getBladeSlotId

Syntax:

```
dscli getBladeSlotId Server
```

Description:

管理対象サーバがブレードサーバの場合、ブレードが格納されている筐体(ブレード収納ユニット)を識別するための筐体 ID、および筐体内の実装位置を示すスロット ID を取得します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

筐体 ID およびスロット ID を表示します。表示例を示します。

```
Enclosure ID: 0040000000
Slot ID:      2
```

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.04 以降でサポートしています。

2.2.52 changeBmcIpAddressLan1

Syntax:

```
dscli changeBmcIpAddressLan1 Server IpAddress ["force"]
```

Description:

管理対象サーバの BMC の LAN1 の IP アドレスを変更します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

IpAddress

IP アドレスを指定します。

"force"

BMC が標準 LAN ポートを使用する管理対象サーバに対して、管理対象サーバ上で OS が動作中に BMC の IP アドレスを変更する場合は、“force” を指定します。

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.05 以降でサポートしています。
-

2.2.53 changeBmcIpAddressLan2

Syntax:

```
dscli changeBmcIpAddressLan2 Server IpAddress ["force"]
```

Description:

管理対象サーバの BMC の LAN2 の IP アドレスを変更します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

IpAddress

IP アドレスを指定します。

"force"

“force”を指定すると、管理対象サーバ上で OS が動作中でも BMC の IP アドレスを変更します。

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.03.05 以降でサポートしています。
-

2.2.54 getFtStatusLamp

Syntax:

```
dscli getFtStatusLamp Server
```

Description:

管理対象サーバが ft サーバの場合、FT ステータスランプの状態を表示します。
このコマンドは管理対象サーバ上で DianaScope Agent のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

管理対象サーバの FT ステータスランプの状態を表示します。FT ステータスランプの状態には以下の種類があります。

OFF	消灯
GREEN_ON	緑点灯
AMBER_ON	アンバー点灯
AMBER_BLINK	アンバー点滅

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.05.05 以降でサポートしています。
-

2.2.55 ftPowerOff

Syntax:

```
dscli ftPowerOff Server
```

Description:

管理対象サーバが ft サーバの場合、電源を強制的に OFF にします。

重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.05.05 以降でサポートしています。
-

2.2.56 ftPowerCycle

Syntax:

```
dscli ftPowerCycle Server ["p" | "u"]
```

Description:

管理対象サーバが ft サーバの場合、電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

.....
重要:

- 管理対象サーバ上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。管理対象サーバの状態を確認の上、実行してください。
-

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

"p"

(推奨)

"p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

"u"

"u"を指定すると、電源 ON 後、ユーティリティブートモードで起動します。保守パーティションの起動や DOS プログラムの操作を行う場合はこのフラグを指定します。

サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"1"が設定されている場合はサーバプロパティの RC_SERVER_RD_IMAGE_FILE で指定された FD イメージファイルを起動します。サーバプロパティの RC_SERVER_REMOTE_BOOT に"2"が設定されている場合はネットワークブートを行います。

.....
ヒント:

- サーバプロパティの設定は2.2.11 setServerPropertyで行ってください。
 - このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.05.05 以降でサポートしています。
-

2.3 EM カード管理系コマンド

以下のサーバ管理系コマンドは EM カードに対しても実行できます。但し、オプション名 `Server` に MAC アドレスを指定することはできません。

2.2.4findNewServer
2.2.5findNewServerNetAddr
2.2.6createServer
2.2.7deleteServer
2.2.8checkConnection
2.2.11setServerProperty
2.2.15getServerProperty
2.2.16getServerInfo
2.2.18getGuid
2.2.32getFaultCondition
2.2.33resetFaultCondition

2.3.1 getEmCardList

Syntax:

```
dscli getEmCardList ["d"]
```

Description:

DianaScope 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

Options:

"d"

"d"を指定すると、EM カード一覧に、EM カード名の他 GUID を表示します。

Output:

DianaScope 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

(“d”オプションを指定しない場合)

EM0001
EM0002

(“d”オプションを指定した場合)

EM0001
GUID: 01b21dd2-1dd2-11b2-2fa4-003013630cc5
EM0002
GUID: 01b21dd2-1dd2-11b2-49bd-003013630cc0

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.3.2 getEmActiveState

Syntax:

```
dscli getActiveState EmCard
```

Description:

指定された EM カードの、アクティブ/スタンバイの状態を表示します。

Options:

Server

EM カードの名前を指定します。

Output:

Active	アクティブ
Standby	スタンバイ

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.3.3 identfyEm

Syntax:

```
dscli identifyEm EmCard [SwmSlotNumber]
```

Description:

指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを 15 秒間点灯させます。EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Options:

EmCard

EM カードの名前を指定します。

SwmSlotNumber

EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを点灯させたい場合に、スロット番号を指定してください。

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.3.4 getEmStatusLamp

Syntax:

```
dscli getEmStatusLamp EmCard [SwmSlotNumber]
```

Description:

指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:

EmCard

EM カードの名前を指定します。

SwmSlotNumber

EM が管理するスイッチモジュールの STATUS ランプを取得したい場合に、スイッチモジュールのスロット番号を指定します。スイッチモジュールの STATUS ランプ状態取得は、EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Output:

STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の通りです。

GREEN_ON 緑点灯
GREEN_BLINK 緑点滅
AMBER_BLINK アンバー点滅
RED_BLINK 赤点滅

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.4 筐体管理系コマンド

2.4.1 getBladeEnclosureList

Syntax:
dscli getBladeEnclosureList

Description:
DianaScope 上に登録されている管理対象サーバまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

.....
ヒント:
• このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
.....

Output:
管理対象サーバまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

2.4.2 getChassisSlotState

Syntax:
dscli getChassisSlotState *ChassisName*

Description:
指定された筐体がブレード収納ユニットの場合、各ブレードスロットの実装状態を表示します。EM カード、およびスイッチモジュールが搭載されている筐体の場合は、EM カードおよびスイッチモジュールの一覧も表示します。

Options:
ChassisName
筐体名を指定します。

Output:

表示内容	説明	
スロット番号	スロット番号を示します。 搭載されているブレードの幅が 2、または高さが 2 の場合は、複数のスロット番号を表示します。	
実装状態	サーバ名	スロットに実装されている、かつ DianaScope 上にサーバ登録されているに場合に表示します。 幅が 2 の場合は、サーバ名に続けて(Double-wide)、高さが 2 の場合は (Full-height)と表示します。
	Installed	スイッチモジュールがスロットに実装されている場合に表示します。
	Not registered	スロットに実装されている、かつ DianaScope 上にサーバ登録されていない場合に表示します。
	Not installed	スロットに実装されていない場合に表示します。
	(空白)	「未登録」と「未実装」を判別できない場合、何も表示しません。

表示例を示します。

```
CPU Blade:
1: SERVER_0001
2: SERVER_0002
3,4: SERVER_0003 (Double-wide)
5: Not installed
6: Not registered
7: Not installed
8: Not registered

EM Card:
1.EM0001
2.EM0002

Switch Module:
1: Installed
2: Installed
3: Not installed
4: Not installed
5: Not installed
6: Not installed
```

.....
ヒント :
• このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
.....

2.4.3 getChassisInfo

Syntax:
dscli getChassisInfo *ChassisName*

Description:
指定された筐体の情報を表示します。

Options:
ChassisName
 筐体の名前を指定します。

Output:
指定された筐体の情報を表示します。

項目名	意味
Chassis Name	筐体の名前です。
Comments	筐体についての説明です。
Rack Name	ラックの名前です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Rack ID	ラック ID です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Unit Name	ブレード収納ユニット名です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Serial Number	筐体識別用のシリアル番号です。

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。

2.4.4 setChassisProperty**Syntax:**

```
dscli setChassisProperty ChassisName PropertyName Value
```

Description:

指定された筐体の筐体プロパティを設定します。

Options:

ChassisName

筐体の名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティのキー名を指定します。

Value

設定する値を指定します。

PropertyName	意味	指定方法
CHASSIS_NAME	筐体の名前です。	15 文字まで
CHASSIS_COMMENT	筐体についての説明です	100 文字まで

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。

2.4.5 getChassisProperty**Syntax:**

```
dscli getChassisProperty ChassisName PropertyName
```

Description:

指定された筐体の筐体プロパティを表示します。

Options:

ChassisName

筐体の名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティのキー名を指定します。筐体プロパティの一覧は2.4.4 setChassisPropertyを参照してください。

Output:

指定された筐体プロパティを表示します。

ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。

2.4.6 setBladeAutoSetting

Syntax:

```
dscli setBladeAutoSetting ChassisName SlotNumber PropertyName Value
```

Description:

このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。

筐体に新しく CPU ブレードが実装されたことを検出したときに、CPU ブレード上の BMC のコンフィグレーションと DianaScope 上へのサーバ登録を自動的に行うための情報を設定します。

Options:

ChassisName

筐体名を指定します。

SlotNumber

CPU ブレードのスロット番号を指定します。全スロットに共通の値を設定する場合は”all”を指定します。

PropertyName

設定するプロパティのキー名を指定します。

Value

設定する値を指定します。

PropertyName	意味	指定方法
GROUP_NAME	登録グループ名を指定します。	
AUTH_KEY	認証キーを指定します。	16 文字まで
SERVER_NAME	CPU ブレードを管理するためのサーバ名を指定します。。一括設定の場合は、サーバ名+スロット番号になります。	15 文字まで 一括設定の場合は 10 文字まで
RECONFIGURE_BMC	有効に設定すると、新しく挿入された CPU ブレードだけでなく、既に実装を確認している CPU ブレードについても、BMC コンフィグレーションを行います。無効に設定すると、再コンフィグレーションを行いません。	0:無効、1:有効
REWRITE_IP_ADDRESS	CPU ブレードの BMC コンフィグレーションが実施されていない場合も BMC が DHCP サーバから IP アドレスを取得する機能により IP アドレスだけが設定されている場合があります。この項目を有効に設定すると、BMC コンフィグレーション実施時に、必ず指定された値に更新します。	0:無効、1:有効
DHCP	IP アドレスを BMC が DHCP から自動的に取得します。	0:無効、1:有効
IP_ADDRESS	CPU ブレードに設定する IP アドレスを指定します。一括設定の場合は、先頭のスロットから順に、指定された IP アドレスから連続した IP アドレスを設定します。	IP アドレス形式
SUBNET_MASK	サブネットマスクを指定します。	IP アドレス形式
DEFAULT_GATEWAY	デフォルトゲートウェイを指定します。	IP アドレス形式
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS	BMC の 1 次通報先/管理用 PC の IP アドレスを指定します。	IP アドレス形式

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.4.7 getBladeAutoSetting

Syntax:

`dscli getBladeAutoSetting ChassisName SlotNumber`

Description:

このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。

筐体に新しく CPU ブレードが実装されたことを検出したときに、CPU ブレード上の BMC コンフィグレーションと DianaScope 上へのサーバ登録を自動的に行うための情報を表示します。各情報の詳細は 2.4.6 setBladeAutoSetting を参照してください。

Options:

ChassisName

筐体名を指定します。

SlotNumber

CPU ブレードのスロット番号を指定します。

Output:

情報を表示します。

```
GROUP_NAME:ChassisN0001
SERVER_NAME:SERVER_0001
RECONFIGURE_BMC:Disable
REWRITE_IP_ADDRESS:Diasable
DHCP:Enable
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS:192.168.14.18
```

.....
ヒント:

- このコマンドは DianaScope Manager Ver.1.08.00 以降でサポートしています。
-

2.5 通信管理系コマンド

2.5.1 connect

Syntax:

```
dscli connect Server
```

Description:

管理対象サーバとの接続形態に従って、管理対象サーバにダイレクト接続またはモデム経由で接続します。

Options:

Server

管理対象サーバの名前、MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.5.2 disconnect

Syntax:

```
dscli disconnect
```

Description:

現在接続中の回線を切断します。

2.5.3 getConnectionStatus

Syntax:

```
dscli getConnectionStatus
```

Description:

ダイレクト接続またはモデム経由接続の接続状態と接続中のサーバ名を表示します。

Output:

接続状態を表示します。接続状態には以下の 8 種類があります。

CONNECTING	接続中
CONNECTED	接続完了
DISCONNECTING	切断中
DISCONNECTED	切断完了
CONNECTION_FAILURE	接続失敗
NO_CARRIER	回線切断
BUSY	話中音検出
NO_DIALTONE	ダイヤルトーン未検出

2.6 環境設定系コマンド

2.6.1 setOption

Syntax:

```
dscli setOption OptionName Value
```

Description:

DianaScope Manager の動作を制御する環境設定項目を設定します。

Options:

OptionName

設定するオプションパラメータの名前です。設定可能なオプションの一覧を示します。

OptionName	意味	指定方法	初期値
BMC_RETRY_COUNT	管理対象サーバ上の BMC との通信のリトライ回数です。	0-10	5
BMC_TIMEOUT	管理対象サーバ上の BMC との通信をリトライする間隔を秒単位で表します。	1-15	5
BMC_SOURCE_PORT	BMC との通信に使用する UDP ポート番号です。	1025-65535	47117
CUI_NO_RESPONSE_TIMEOUT	リモートコンソール接続が通信のタイムアウトにより切断されるまでの秒数です。	20-1800	60
CUI_SYS_RQ_KEY	CUI リモートコンソール接続で使用する SysRq キーのエイリアスキーです。	"": 指定なし "Q":Ctrl+Alt+Q "X":Ctrl+Alt+X	""
HISTORY_LOG_NUMBER_OF_RECORDS	アプリケーションログの最大件数です。	2000-10000	2000
MODEM_PORT_NUMBER	管理サーバにダイレクト接続するときに使用する DianaScope サーバのシリアルポート番号です。	1-8	1
MONITORING_ENABLE	サーバの DC 状態と STATUS ランプの異常を監視する機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	1
MONITORING_AUTO_UPDATE_ENABLE	Web ブラウザ上で DianaScope を操作する際に、サーバ状態の表示を自動更新する機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	1
MONITORING_AUTO_UPDATE_INTERVAL	Web ブラウザ上で DianaScope を操作する際に、サーバ状態の表示を自動更新する機能の、自動更新間隔を秒単位で表します。	1-60	5
RC_POWER_CONTROL_INTERVAL_MILLIS	複数サーバの電源制御を連続して行う際の実行間隔をミリ秒単位で表します。	0-5000	500
RMI_PORT	RMI 通信に使用する TCP ポート番号です。	1024 - 65535	1099

.....
ヒント:

- オプションパラメータ“RMI_PORT”は DianaScope Manager Ver.1.05.00 以降でサポートしています。
 - オプションパラメータ“CUI_SYS_RQ_KEY”は DianaScope Manager Ver.1.06.04 以降でサポートしています。
-

Value

新たに設定する値を指定します。

2.6.2 getOption

Syntax:

`dscli getOption OptionName`

Description:

DianaScope Manager の動作を制御する環境設定項目を取得します。

Options:

OptionName

取得するオプションパラメータの名前です。オプションパラメータの一覧については2.6.1 `setOption` を参照してください。

Output:

指定した環境設定項目の値を表示します。

2.6.3 getPermitIpAddrList

Syntax:

```
dscli getPermitIpAddrList
```

Description:

DianaScope へのログインを許可する IP アドレス範囲の一覧を表示します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが DianaScope にログインできます。

Output:

IP アドレス範囲の一覧を表示します。表示例を示します。

No.1: 192.168.0.1 - 192.168.0.254
No.2: 192.168.1.10
No.3: 192.168.2.10

2.6.4 isPermitIpAddr

Syntax:

```
dscli isPermitIpAddr CheckIpAddr
```

Description:

指定した Web クライアントの IP アドレスがログインを許可された IP アドレスかどうかを表示します。

Options:

CheckIpAddr

IP アドレスを指定します。

Output:

指定した IP アドレスがログイン許可する IP アドレスかどうかを表示します。

OK	許可する
NG	許可しない

2.6.5 addPermitIpAddr

Syntax:

```
dscli addPermitIpAddr StartIpAddr [EndIpAddr]
```

Description:

DianaScope へのログインを許可する IP アドレス範囲を追加します。

設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが DianaScope にログインできます。

ヒント:

- DianaScope Manager を起動している DianaScope サーバ上の Web ブラウザからは、アクセス制限に関わらず、ログインできます。

Options:

StartIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。このオプションを省略した場合は StartIpAddr で指定した IP アドレスが単独で追加登録されます。

2.6.6 removePermitIpAddr

Syntax:

```
dscli removePermitIpAddr StartIpAddr [EndIpAddr]
```

Description:

ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を削除します。

Options:

StartIpAddr

開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

終了 IP アドレスを指定します。

2.6.7 clearPermitIpAddr

Syntax:

```
dscli clearPermitIpAddr
```

Description:

ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を全て削除します。

2.7 ユーザ管理系コマンド

2.7.1 createUser

Syntax:

```
dscli createUser UserName Password
```

Description:

Web ブラウザで DianaScope を利用するためのユーザを登録します。登録されるユーザの権限はオペレータとなります。最大 30 ユーザまで作成することができます。

Options:

UserName

新しいユーザ名を指定します。最大 16 文字までの名前を入力できます。

Password

6 ~ 16 文字までのパスワードを指定します。

2.7.2 removeUser

Syntax:

```
dscli removeUser UserName
```

Description:

Web ブラウザで DianaScope を利用するためのユーザの登録を削除します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

2.7.3 getUserList

Syntax:

```
dscli getUserList
```

Description:

登録されているユーザの名前、ユーザ権限の一覧を表示します。ユーザ権限の種別にはアドミニストレータとオペレータがあります。

Output:

表示例を示します。

Admin	Administrator
User1	Operator
User2	Operator
:	
:	

2.7.4 setUserProperty

Syntax:

```
dscli setUserProperty UserName PropertyName Value
```

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを設定します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。
実行権限の変更はオペレータ種別のユーザについて有効です。

PropertyName	意味	指定方法	初期値
USER_NAME	ユーザ名です。	16 文字まで	空白
USER_PASSWORD	ログインパスワードです。	6 ~ 16 文字まで	空白
USER_COMMENT	ユーザに関する説明です。	100 文字まで	空白
UL_POWER_ON	パワーON の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_POWER_OFF	パワーOFF の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_RESET	リセットの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_POWER_CYCLE	パワーサイクルの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_SHUTDOWN	OS シャットダウンの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_DUMP	DUMP スイッチの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_SEL_CLEAR	システムイベントログ領域のクリアの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_BMC_REMOTE	BMC 設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_CONFIG_CREATE	サーバ追加の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_CONFIG_CHANGE_DELETE	接続設定の編集、サーバ削除の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_REMOTE_CONSOLE	リモートコンソールの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_SCHEDULE	スケジュール設定の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
UL_REMOTE_BATCH	リモートバッチの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0

Value

新たに設定する値を指定します。

2.7.5 getUserProperty

Syntax:

```
dscli getUserProperty UserName PropertyName
```

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを表示します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティのキー名を指定します。ユーザプロパティの一覧については2.7.4 `setUserProperty`を参照してください。ただし、「USER_PASSWORD」は表示できません。

Output:

指定されたユーザプロパティを表示します。

2.8 その他のコマンド

2.8.1 getApplicationLog

Syntax:

```
dscli getApplicationLog [Number]
```

Description:

最新のアプリケーションログを、Number で指定した件数表示します。

Options:

Number

表示するログの件数を指定します。このオプションを省略した場合は、最新の 10 件を表示します。

Output:

アプリケーションログを表示します。アプリケーションログは 1 行に日付・サーバ名・IP アドレス・ユーザ名・イベント内容の順で表示します。

2.8.2 addLicenseKey

Syntax:

```
dscli addLicenseKey LicenseKey
```

Description:

登録可能な管理対象サーバ数を拡張するためのサーバライセンスのキーを登録します。DianaScope を使用してリモート管理を行うためには、1 つの管理対象サーバについて 1 サーバライセンスが必要です。

Options:

LicenseKey

ライセンスキーを指定します。

2.8.3 about

Syntax:

```
dscli about
```

Description:

DianaScope Manager のバージョン情報を表示します。

Output:

DianaScope Manager のバージョン情報を表示します。

2.8.4 help

Syntax:

```
dscli help [CommandName]
```

Description:

ヘルプを表示します。CommandName オプション が指定されていない場合はコマンド一覧を、CommandName オプション が指定されている場合は指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Options:

CommandName

ヘルプを表示したいコマンド名を入力します。

Output:

コマンド一覧または指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Revision History

1.00	2004/07/11	新規作成
1.01	2004/08/27	実行例の誤記を訂正。 checkConnection コマンドの記載を修正。
1.02	2004/11/30	getServerList コマンドに"d" オプション追加。 identifyChassis コマンドに"blink" オプション追加。 changeBmclpSync、getBmclpSync コマンドを追加。 誤記訂正。
1.03	2004/12/06	誤記訂正。
1.04	2004/12/22	誤記訂正。
1.05	2005/01/18	誤記訂正。
1.06	2005/01/30	以下のコマンドに"f"、"p"オプション追加。 groupPowerOn,groupReset, groupPowerCycle, powerOn, reset, powerCycle getBladeSlotId コマンドを追加。 サーバプロパティ RC_SERVER_REMOTE_BOOT に設定可能な値を変更。 setOption コマンドの設定可能範囲を追記。 誤記訂正。
1.07	2005/03/09	各コマンドの Server オプションに MAC アドレスまたは GUID を指定する実行形式を追記。 以下のコマンドを追加。 changeBmclpAddressLan1, changeBmclpAddressLan2 getServerNameByMacAddr, getServerNameByGuid 誤記訂正。
1.08	2005/04/15	changeBmclpAddressLan1, getServerList, changeBmclpSync および getBmclpSync コマンドの記述改善。
1.10	2005/11/01	setOption コマンドに新オプションパラメータ追加。 誤記訂正。
1.11	2005/12/19	以下のコマンドを追加。 getFtStatusLamp, ftPowerOff, ftPowerCycle getStatusLamp, getPanelInfo コマンドに新オプションを追加。
1.12	2006/05/01	getGroupRemoteKvmLicense コマンドを追加。 setOption/getOption コマンドのオプションパラメータ " CUI_SYS_RQ_KEY" 追加。
1.14	2006/06/28	changeBmclpInfo コマンドに新キー名(CFG_DHCP)追加。
1.15	2006/09/27	EM カード管理系コマンド、筐体管理系コマンドを追加。 GetGroupRemoteKvmLicenseList、GetServerInfo コマンドの説明を更新修正。 誤記訂正。
1.16	2006/11/08	Web サイトの URL 更新。
1.17	2007/03/28	changeBmclpInfo コマンドに新キー名(CFG_DHCP_LAN2)追加。 shutdownOs および groupShutdownOs コマンドに force オプションを追加。
1.18	2007/06/25	GetChassisState コマンドの説明変更。 誤記修正
1.30	2007/09/26	EXPRESSSCOPE エンジンシリーズの記載名称を更新。

